



ほけんだより

12月



平成 29 年 11 月 31 日
軽野 保育園

早いもので、今年もあと1ヵ月となりました。今年は、暑い夏から秋にかけて急激に寒くなり、かぜでお休みした子どもたくさんいました。園ではこまめな手洗い・うがいを呼びかけ、かぜ予防をしています。ご家庭でもお子さまの体調管理に十分な配慮をお願いします。

冬場に多いおう吐・下痢

この時期、気をつけたいのがノロウイルス、ロタウイルスなどの「ウイルス性胃腸炎」。

感染すると、突然吐き出したり、激しい下痢を1日に何度も繰り返したりします。

特に乳幼児がかかりやすく、脱水症状からひきつけを起こすなど重症化する恐れがあります。

激しくぐずる、1日中ぐったり寝ている、唇や口の中が乾いている、おしっこの量が減っている等の症状が見られたらすぐに病院にかかりましょう。

保育園でおう吐や下痢があったら・・・

衣類などを汚してしまった場合、二次感染予防を考慮し、保育園では衣類の洗濯や消毒は行わず、そのまま持ち帰って頂きます。ご家庭での消毒、処理方法をプリントにて一緒に添付しますので、参考にしてください。

お子さんの全身状態を見て必要と思われる時は、お迎えをお願いすることがあります。

また感染性胃腸炎でお休みし、登園するにあたっては、嘔吐・下痢の症状が治まり『ふだんの食事がとれること』を目安にしてください。

ご理解ご協力のほどよろしく
お願い致します。

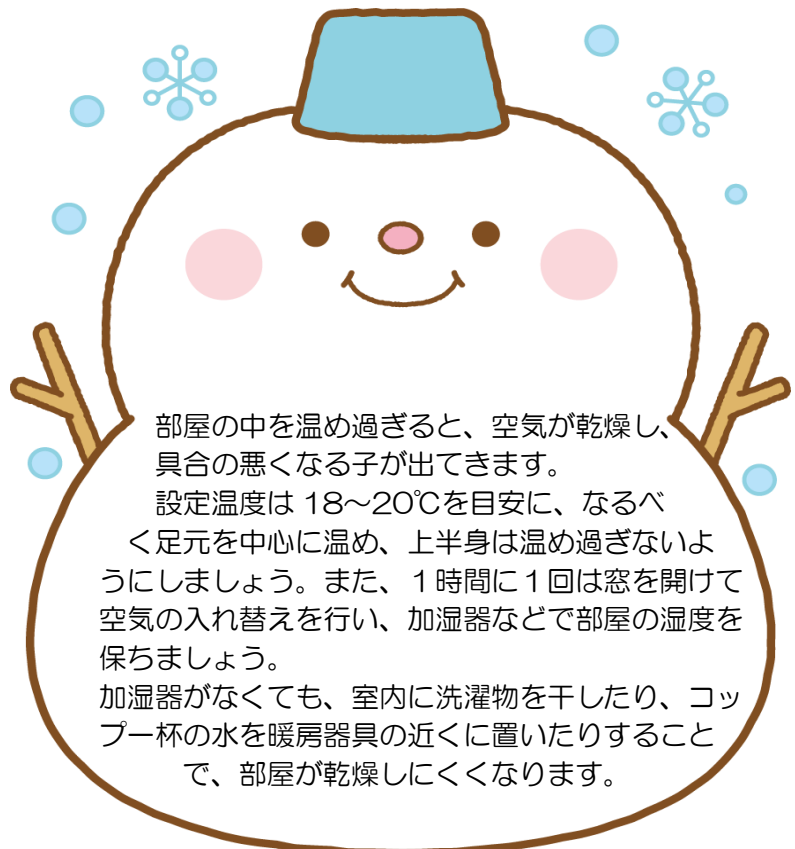


冬のあせも・とびひ

あせもやとびひと言え、夏場のイメージが強いですが、最近は暖房や厚着が原因で、冬場でもなる子どもが多いようです。

子どもは代謝がよく、たくさん汗をかくので、服装は大人より一枚少なめが基本です。

乳児は特におむつの中が濡れやすくなるので、上下のつながったタイプの肌着はなるべく避け、時々背中に触れて、汗をかいていないかどうか確認をしましょう。



部屋の中を温め過ぎると、空気が乾燥し、具合の悪くなる子が出てきます。

設定温度は18～20℃を目安に、なるべく足元を中心に温め、上半身は温め過ぎないようにしましょう。また、1時間に1回は窓を開けて空気の入替えを行い、加湿器などで部屋の湿度を保ちましょう。

加湿器がなくても、室内に洗濯物を干したり、コップ一杯の水を暖房器具の近くに置いたりすることで、部屋が乾燥しにくくなります。